

鶯や今朝さめて在る浦の宿

木の芽

嵐山の木の芽を騒ぐ鴉かな

鳴雪翁祝賀記念句会 席題「春風」

春風や濡れて吹かる、棹の先

鳴雪翁に捧ぐ一人一句

句の弟子が訪ひ来て春を惜しみけり

■大正6年

句 帖 四句

蘆の芽に逆巻きて雪到りけり

児の挿せし茨枯れあり井の辺り

夜桜や人笑ひ行く塀の外

寒燈句会

足袋ついで冴返る夜の行燈哉

草の蝶皆水の上に飛びにけり

畑打の後ろ風ある大樹かな

山越せば村の名同じ柳かな

蚕室や灯置けば古き太柱

鶏しまひ終えて水辺の暮れ遅し

茶摘女は谷に下りたる昼飼かな

句 帖

春の海に船より落す巨材かな

(曲水1-7)

(曲水1-8)

(曲水2-1)

(2月17日)

(3月10日)

( )

(3月31日)

(4月7日)

(4月21日)

( )

(曲水2-1)

風やみし暫しを牡丹散りしよな

寒燈句会

山裾の茶を作る家の牡丹かな

祭人に遠く燃え居る山火かな

井晒すや畑に吹かる、芥子赤し

芥子に立つ子の各々の帽子かな

稗蒔に水遣るや後ろ灯りけり

句 帖

草餅や椎深く住む年久し

草餅を食ひて鉢坑に入りにけり

吟社七月例会 席題「薰風、裸」

大風の芭蕉を剪りし裸かな

薰風や裾の底の石切場

句 帖

草深く住みて月古る団扇かな

大甕に飼はる、鯉や蔦若葉

賓客に離亭を掃くや棕櫚の花

おのがじし紫陽花咲けり日の表

灯せば障子にありぬなめくぢり

花氷解けたる水をすてにけり

(曲水2-3)

(5月26日)

(5月30日)

(6月16日)

( )

(7月6日)

(曲水2-2)

(曲水2-3)

静岡・長頸子

( )

( )

( )